

オートバックスセブン
株主通信

Vol.11

第58期

Show Get-key

しょうげき～衝撃～

事業報告書 2004年4月1日から2005年3月31日まで



財務ハイライト

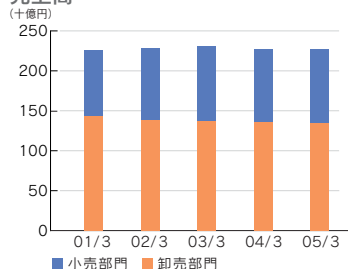
単位: 百万円

目次

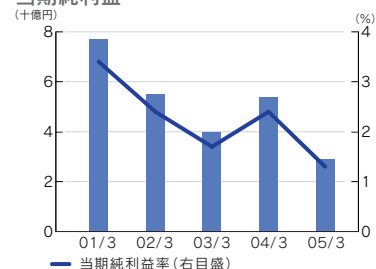
- 1 財務ハイライト
- 2 ごあいさつ
- 7 トピックス
- 9 オートバックスグループの
ピットサービスラインナップ
- 11 ご存知ですか? 「自動車リサイクル法」
- 12 2005年ARTA プロジェクトが
パワーアップして始動!
- 13 財務報告
- 20 株式情報
- 21 会社情報
- 22 オートバックスグループ
ホームページのご案内

	第56期 (自平成14年4月1日から 至平成15年3月31日まで)	第57期 (自平成15年4月1日から 至平成16年3月31日まで)	第58期 (自平成16年4月1日から 至平成17年3月31日まで)
売上高	230,478	227,077	226,779
卸売部門	137,267	135,551	133,384
小売部門	93,211	91,526	93,395
経常利益	10,273	10,480	12,694
当期純利益	4,003	5,443	2,928
一株当たり情報(円):			
当期純利益	106.76	149.80	79.85
配当金	36.00	36.00	45.00
株主資本	3,979.02	4,153.92	4,196.25
総資産	187,138	202,760	203,224
株主資本	145,817	147,532	148,982

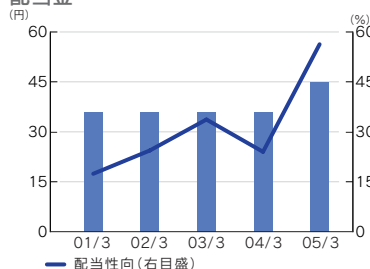
売上高



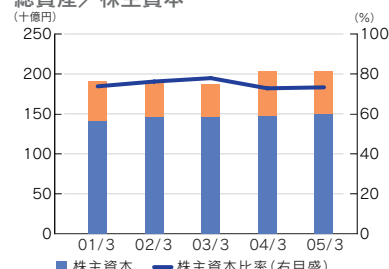
当期純利益



配当金



総資産／株主資本



見通しに関する注意事項

この株主通信に記載してある戦略や今後の事業展開など歴史的事実に基づいていない部分は、現在入手可能な情報から得られた経営者の判断に基づいたものであり、実際はさまざまなリスク要因の変化により異なる結果となることがあります。



オートバックスグループの使命

「世界中のドライバーを 車好きに変える」 「車好きのユートピアをつくる」

二つの大義を実現するため、
私たちオートバックスグループは、
カーライフスタイルの創造者として行動します。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

オートバックスセブンの第58期事業報告書を兼ねる、株主通信「Show Get-key」Vol. 11をお届けいたします。株主の皆さまとのコミュニケーションツールとして、オートバックスグループについて毎回多くの情報をお届けしている本誌ですが、今号は、中期経営計画の背景と概要をご紹介しますとともに、グループ店舗で提供しているサービスや話題のリサイクル法の記事などを掲載しています。株主の皆様のオートバックスグループに対する理解促進の一助となれましたら幸甚です。

当期(2005年3月期)のご報告

当期の日本経済は、前半において輸出や設備投資の増加を背景に企業収益が大幅に改善するとともに、完全失業率が低下するなど、景気好転の兆しが見られました。しかし後半に入り、為替相場の変動や原油価格の高騰が世界的な経済状況に影響を与えることが懸念され、また国内においても年金問題が取りざたされるなど消費者の心理を押し下げる要素が現れたことによって、期全体としては先行きの不透明感が払拭されないままに終始しました。

カー用品業界においては、オイル・バッテリーなどが個人消費の冷え込みや冷夏の影響を受けて低迷し、またカーエレクトロニクスも横ばい程度で盛り上がり

に欠ける結果となりました。カーエレクトロニクスのうちETC車載器は、道路3公団が実施する購入支援制度と本体の低価格化・高機能化によって消費者の購買意欲を刺激し、好調な販売を続けました。しかし一方で近年、市場の大きな牽引役となっていたカーナビゲーションについて、新車への標準装備が進んだことなどによりその勢いがかげりを見せ始め、ETC車載器の好調を抑え込むかたちとなりました。

このような状況下、弊社グループは引き続き「カー用品販売業からトータルカーライフサポート業へ」の変革を推進し、財務基盤の再構築と成長体質への変革を図りました。また前期に示した「中期戦略」を着実に進めるとともに、これに具体性を持たせた「中期経営計画」をまとめあげることができました。

オートバックスグループの「中期経営計画」

カー用品市場では、景気の低迷と根強い低価格化への圧力、車両の耐久性向上や自動車メーカーにおけるカーナビゲーションの標準装備化、さらにETC車載器も車両購入時に取り付けることが多くなるなど、アフターマーケットニーズの減退が続いています。またカーディーラーをはじめとする異業種との競争も、激化の一途を辿っています。事実オートバックスグループにおきましても、従来通りの商売をしてはお客さまにとっての魅力を十分に発揮することができないとの危機感が高まっていました。

このような認識のもと、オートバックスグループが再び強い成長軌道に立ち戻るための具体的な行動計画として、3つの成長戦略（エリアドミナント戦略／トータルカーライフ事業戦略／海外事業戦略）と、経営基盤の整備計画から成る「中期経営計画」を策定しました。『競争力の再生による再成長の実現』、つまり「チェーン売上の拡大」と「資産収益性の向上」を経営方針に掲げる同計画において、今期（2006年3月期）は競争力の再生により再成長のための足場を固める年と位置づけられています。計画は着々と進行しており、来期（2007年3月期）からは本格的な成長をスタートし、その先に掲げる経営目標を達成したいと考えています。

【経営目標】

	2005年3月期	2009年3月期
チェーン店舗小売売上高	2,914億円	→ 3,600億円
連結 Mauqe [※]	▲2億円	→ 45億円
連結経常利益	126億円	→ 180億円

※ Mauqe (Measurement of Autobacs Universal Quality Earnings):
 弊社独自の収益指標。
 $\text{Mauqe} = \text{経常利益} - (\text{事業資産} \times \text{ハードルレート})$
 $\text{事業資産} = \text{売掛債権} + \text{たな卸資産} + \text{固定資産}$

《エリアドミナント戦略》

エリアドミナント戦略は、全国を一定の基準に沿って設定されたエリアに分割し、それぞれの地域特性や競合環境に合わせてリロケーションや閉店、新店の設置を

行い、エリア内で店舗の再配置と業態ミックスの最適化を図るものです。オートバックスグループには、オレンジの看板でおなじみの「オートバックス」、規模が大きくより充実した品揃えとサービスを提案する「スーパーオートバックス(Type I、Type II)」、さらに中古カー用品を販売する「オートバックス走り屋天国セコハン市場」など、複数の業態があります。それぞれ主な対象顧客を異にする業態を組み合わせることによって、様々な客層と個々のお客さまの多様なニーズを全てカバーし、余すところなく応えることのできる体制を作り上げるのが、このエリアドミナント戦略の目的です。

お客さまは、オイルやバッテリーなどの消耗品をご希望のときには普及品中心の品揃えの「オートバックス」を、より多くの種類や機能を求める、こだわりのあるお客さまは「スーパーオートバックス」をご利用いただけます。またリーズナブルな中古カー用品を楽しむには「オートバックス走り屋天国セコハン市場」を、というように、用途や目的によって来店店舗を選ぶことができます。また来店した店舗にない商品やサービスをご希望のお客さまには、近隣のグループ店舗を紹介するなど、業態の特徴を活かしながら連携する体制も整備する予定です。

また現在検討している事項として、顧客会員の情報共有とその活用が挙げられます。オートバックスグループをご利用のお客さまに主旨をご説明した上で会員登録をお願いし、お車の整備状況、過去の商品・サービス購入

履歴を適正に管理、個々の顧客の好みにあった商品の情報や車検のお知らせなど、効果的なプロモーション活動につなげていきます。

これら施策を着実に推進すれば、オートバックスグループの店舗に行けば全てが揃う、どんなサービスも提供してくれる、というお客さまの信頼とロイヤルティを得て、末永くご愛顧いただけるオートバックスグループへと進化していけるものと考えています。

《トータルカーライフ事業戦略》

カー用品のアフターマーケットが縮小傾向を見せる中、市場で勝ち抜いていくためには既に展開している市場の深堀りだけではなく、事業を行う領域を広げる必要があります。オートバックスグループでは、お客さまのカーライフ全てをサポートする体制をつくることで事業領域の拡大を可能にし、さらにはカー用品販売事業とのシナジー効果をあげるトータルカーライフ事業戦略をとっています。シナジー効果は、カー用品とその他の事業が互いに補完し合い、またそれぞれを利用する顧客に対する付加価値を生み出す仕組みによって実現されます。

具体的な事業としては、「車検・整備」および「車販売」に力を入れており、オートバックスグループ店舗で提供するこれらのサービスは、展開が本格化するにつれてお客さまの認知度を上げています。中でも売上を伸ばしている「車検・整備」においては、信頼の

技術とカー用品販売で培ってきた知識・ノウハウをフルに活用し、付加価値の高いサービスを提供しています。またカー用品目当てでご来店になったお客さまが、合わせてこれらサービスを利用したり、逆に車検や整備を利用するお客さまが部品やカー用品を購入されるといった相乗効果も発揮されつつあります。

この他にもお客さまのカーライフニーズに応えるビジネスを中心に、新たな可能性を模索しています。事業化については積極的かつ慎重に取り組んでおり、事業化と撤退のルールを明確にしながら、オートバックスグループの新たな魅力となる、成長の布石を打っていく考えです。

《海外事業戦略》

海外事業については、オートバックスグループの将来的な成長を牽引する事業の一つと位置づけ、収益性を重視した展開を図る方針です。これまでアジア各国、フランス、米国において展開してきましたが、立ち上げから一定の期間を経た現在、地域の特性や将来性に照らし合わせた事業性の再評価に取り組んでいます。この結果とオートバックスグループとしての方向性を踏まえ、事業展開の様態および展開する業態を含めた地域別の展開方針をまとめ、明確な目標を持って海外事業を推進していきます。

《経営基盤の整備》

中期経営計画を滞りなく推進し、オートバックスグループの再成長を実現するために、経営基盤を整備しています。既に執行役員制度の導入による責任の明確化や従業員の意識徹底など、多くの施策を行ってきました。現在はこれに加えて、意思決定を迅速にする経営構造改革や企業体質の活性化、さらに人事・物流・情報システム・財務など、あらゆる面から実施可能な施策に取り組んでいこうとしています。

コーポレートガバナンスと株主還元

前項でも述べたとおり、意思決定の迅速化を進めるため、役員・取締役の権限の明確化や、より実際の事業展開と重点領域に即した社内機構の整備を行っています。オフィサー制度では、各オフィサーの執行分野における責任と裁量を明確化すると同時に、「エリアドミナント戦略」と「トータルカーライフ事業戦略」については、Co-CEOを配してCEOの権限を一部委譲しました。また監査役制度を採用しており、社外監査役を含む4名が重要な意思決定を行う会議に参加するなど、経営および執行について日常的な監査を行い、その健全性と全社方針との統一性を検証しています。

コンプライアンス(法令遵守)については、役員および従業員が法令を遵守し、倫理観に基づいた企業活動を行うことを旨としています。期中新たに「コンプライアンス推進室」を社内を設置し、コンプライアンス意識

の啓蒙と浸透に努めるとともに、「行動規範」、「行動指針」を制定して企業倫理のさらなる向上を目指しています。

株主の皆さまへの利益還元については、収益力の向上を重視して中長期的な視点で財務体質の改善を図りながら、還元と事業展開に備えるための内部留保の充実を行うことを基本方針としています。配当金につきましては、安定的、かつ漸増的な配当を基本に、業績および経営環境などを総合的に勘案して決定しています。当期の配当金はこの方針に基づき、中間・期末配当金それぞれに3.0円、またオートバックス業態30周年の記念配当として3.0円の合わせて9.0円増配の、一株当たり45.0円とする予定です。今後も自己株式の取得や増配を随時検討し、株主価値の向上に努めていく考えです。

社会貢献活動および環境保全活動

弊社は、一企業市民としての責任を果たすため、各種社会貢献活動と環境保全活動に力を入れています。社会貢献活動においては、1999年の第1回から協賛している「障害者ゴルフ大会東京フィランスロピーオープン」などのスポーツ活動のほか、クラシックコンサートへの協賛など音楽活動も支援しています。

環境保全活動においては、「廃棄物適性処理ガイドライン」を定めて各店舗に配布し、リサイクルを中心とした廃棄物の適正な処理と削減に努めています。また

「オートバックス走り屋天国セコハン市場」での中古品の取り扱いによるリユース、保証期間の長期化による商品のロングライフ化を図るなど、多くの取り組みを行っています。

株主の皆さまには、経営と事業の基盤を固く整え、再成長の実現に向かって邁進していくオートバックスグループへの変わらぬご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2005年6月

住野 公一

住野公一

代表取締役 CEO

トピックス

- 「ETC車載器5,000円分キャッシュバックキャンペーン」をスタート(～2005年4月30日)

- 本社(本店)を東京都江東区に移転
- 「道路3公団からの割引が充実している今だから、ETC祭」をスタート(～2005年5月31日)
- 「第6回障害者ゴルフ大会 東京フィランソロピーオープン」に協賛
- 小商圏・小規模型フォーマットで展開する
新型「オートボックスエクスプレス」の
1号店「オートボックスエクスプレス氷見」をオープン(富山県)

- 「オートボックス アジアクロスカントリーラリー2004^{*1}」に協賛
- 子会社カー・イズ株式会社が開発した日本初の
「ケータイ・カーナビ」の先行販売を開始

- 2輪用品の大型専門店『ライコランドTOKYO BAY東雲』をオープン(東京都)
- ETC車載器専売モデル「EP-223A」(三菱電機製)の独占販売を開始
- オートボックスが厳選したカー用品とカーライフの
情報誌「A-SELECT(エーセレクト)」創刊
- タイ王国2号店『AUTOBACS PATTANAKARN STORE』をオープン

- 中国初出店『澳德巴克斯(オートボックス)
華庄(シンザン)店』をオープン

- 氷雪性能を向上させたプライベートブランド
スタッドレスタイヤ「North Trek N1
(ノーストレックエヌワン)」の販売を開始

- カーAV機器盗難警報装置専売モデル
「AV GURD AVG-002」の独占販売を開始
- 車検・整備・板金専門館1号店
『オートボックステクノキューブ福岡原店』を開設(福岡県)

- 決算公告の電磁的開示をスタート

2004

2005



●「スーパーオートバックス」のホームページをリニューアル

●「2005 AUTOBACS SUPER GT SERIES^{※2}」に冠スポンサーとして特別協賛

- 『オートバックステクノキューブ熊本浜線』を開設(熊本県)
- 『オートバックステクノキューブ相模原店』を開設(神奈川県)
- リニューアルしたプライベートブランド エンジンオイル「AUTOBACS PRO VANTAGE(オートバックス プロ ヴァンテージ)」シリーズの販売を開始

第4四半期のトピックス

プライベートブランド エンジンオイルをリニューアル発売

「AUTOBACS PRO VANTAGE (オートバックス プロ ヴァンテージ)」シリーズ



エンジンオイル^{※3}の品質は、エンジンの性能や耐久性に深く関わっています。このたびリニューアルした「AUTOBACS PRO VANTAGE」シリーズは、SM規格^{※4}適合品を含む13種類29アイテムを新たに加え、全21種類48アイテムのラインナップ。使用車種や用途・性能を分かりやすく表示した新パッケージと、便利な容量の3ℓサイズ缶の採用で、これまで以上にお求めやすくなりました。



車検・整備・板金専門館

「テクノキューブ」を開設



車の楽しみ方が多様化するにつれて、お客さまのピットサービスに対するニーズも幅広く、より専門的になってきています。オートバックスグループでは拡大するピットサービス利用者に対応するために、車検・整備・板金専門館「テクノキューブ」の試験的な設置を2004年7月より開始しました。2005年2月には熊本県熊本市と神奈川県相模原市にそれぞれ開設。十分なピット作業台数の確保により作業効率を向上させ、お客さまをお待たせしないピットサービスの提供が可能になりました。加えて車検・整備メニューの分かりやすい提示と、十分な事前説明を行う丁寧なサービスが好評で、新たなお客さまにオートバックスグループ店舗をご利用いただくきっかけにもなっています。



※1 アジアクロスカントリーラリー：タイ王国およびラオス人民民主共和国で開催された四輪駆動車ラリー競技です。

※2 SUPER GT SERIES：全8戦が開催される国際自動車レースで、国内最大の観客動員数を誇ります。

※3 エンジンオイル：車のエンジン内を循環し、金属の摩擦軽減や、冷却、防錆などの働きをしています。
※4 SM規格：API(アメリカ石油協会)が2004年11月に定めた、エンジンオイル規格の最高位です。SM規格適合のエンジンオイルは、浄化性・耐久性・耐熱性・耐磨耗性に優れ、省燃費で、オイルの減りが少ないのが特徴です。



オートバックスグループのピットサービスラインナップ

メンテナンスからドレスアップまで

日常的に車を利用しているドライバーでも、ボンネットを開けることは多くありません。また専用機械と力作業が必要なタイヤ交換や、繊細な技術が欠かせないウインドウフィルムの貼り付けなどは、自分で行おうとしても難しいものです。

オートバックスグループ店舗ではお客さまの充実したカーライフをサポートするために、カー用品販売に付随する取り付け・交換、日常のメンテナンスや車検・整備など、専門的な知識と高い技術力が必要とされるピットサービスを幅広く提供しています。



多様化するお客さまのニーズにお応えするために

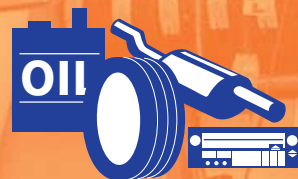
オートバックスグループでは、充実した教育プログラムによるプロのピットマン育成はもとより、指定認証工場資格や専門認証工場資格の取得を積極的に推進し、安心・確実な車検や整備を行う体制を整えています。また同時にピットサービス拡充の一環として、車検・整備・板金専門館「テクノキューブ」の試験的な展開を始めており、2005年3月末時点で4拠点を開設しています。

オートバックスグループは、今後もサービスメニューの拡充とさらなる質の向上を図り、お客さまの満足度をより高めていきたいと考えています。車のメンテナンスなどが気になったら、お近くのオートバックスグループ店舗でぜひ一度ご相談ください。

オートバックスグループ店舗では豊富な**ピットサービスメニュー**を用意して お客さまのご来店をお待ちしています

取り付け・交換

タイヤやオイル、バッテリーを含む消耗品はもちろん、カーオーディオ、カーナビゲーション、ETC 車載器をはじめとするカーエレクトロニクス商品、マフラーやステアリング、足回りパーツといったカースポーツ用品などの取り付け・交換を行っています。



車検・点検

オートバックス／スーパーオートバックス全店では、車検※や無料点検サービスの申し込みを受け付けています。料金の中味が見える車検として好評の「立会い見積り」は、お客さま立会いのもとで車検費用の概算お見積りを行うサービスです。また無料点検「スピーディーチェックサービス」は、約 10 分程度でエンジンオイルやタイヤ、バッテリーなど 8 項目のチェックを、手軽に受けていただける車の健康診断です。



整備・修理

安全なドライブのために欠かせない日常点検や、消耗もしくは破損したパーツの交換・修理を行います。部品の摩耗などにより近々不具合になる恐れがある箇所を発見した場合はお客さまに説明し、故障が発生する前に必要な整備を行い、車の安全性を確保します。



板金・塗装

短時間・低料金で修理できる「早・技(はやわざ) 板金」システムを整えています。最新の板金工法と塗料を用いて、すり傷や小さなへこみなどの軽板金からエアロパーツ類や車内小物の塗装まで幅広く対応します。



※ 車検の料金や問い合わせ、サービス／商品などの情報は、オートバックスグループのポータルサイト『オートバックス ドット コム』でもご参照いただけます。
<http://www.autobacs.com/>

ご存知ですか？

「自動車リサイクル法」



地球環境を守るために

2005年1月、車のリサイクルを促進し環境問題への対応を図るために、「使用済自動車の再資源化等に関する法律」、通称「自動車リサイクル法^{※1}」が本格施行されました。

消費者の身近な交通手段として普及し、日本全国に約7,739万台(2004年3月時点)も走っている車。約11年の平均寿命^{※2}を終えると、いわゆる“廃車”として処理されます。しかし近年、最終処分場のひっ迫、処理費用の高騰による不法投棄、不適性処理増大の懸念、オゾン層の破

壊など、かつてのリサイクルシステムが機能不全に陥りつつありました。そこで、新たなシステムの構築が必要との判断から生まれたのが、この「自動車リサイクル法」です。

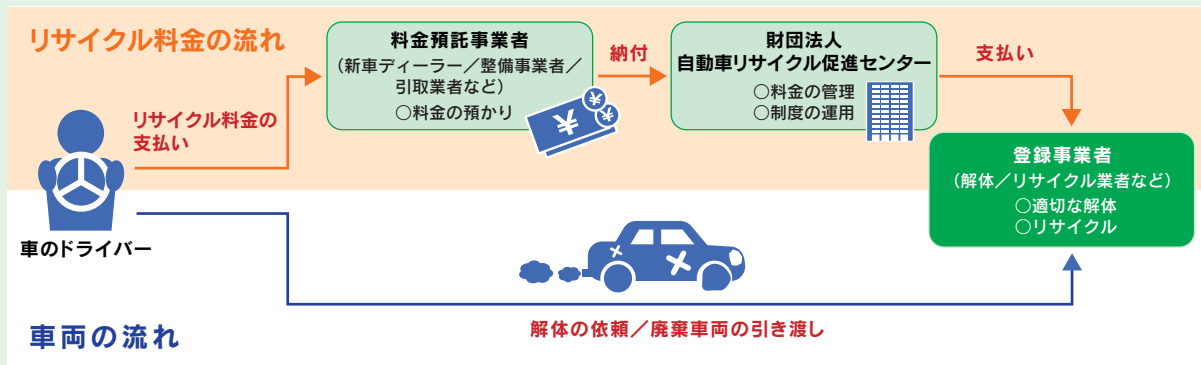
施行によって社会全体のリサイクルや環境に対する意識を高めるとともに、自動車という大きな産業においてリサイクル活動が進むことで、リサイクル技術全般が向上するものと期待されています。「自動車リサイクル法」は、私たちの暮らす地球を守るための、大切な一歩なのです。



「自動車リサイクル法」の仕組み

「自動車リサイクル法」のもとで運用されている制度では、車の解体・破砕後に残るシュレッダーダストや、オゾン層を破壊するフロン類、作業に危険がともなうエアバッグ類の

処理方法について、特に厳しく定めています。施行にともない自動車メーカーにはリサイクル処理が、車の所有者にはリサイクルに必要な費用の負担^{※3}が義務付けられました。



※1 「自動車リサイクル法」の詳細については財団法人自動車リサイクル促進センターのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jarc.or.jp/> (自動車リサイクル促進センター)

※2 日本国内で乗用車を初年度登録してから廃車されるまでの平均年数。

※3 リサイクル料金の支払い時期や方法、また金額については、自動車メーカー・輸入業者各社にお問い合わせいただくか、自動車リサイクル促進センターのウェブサイトでご参照ください。
<http://www.jars.gr.jp/> (自動車リサイクル促進センター「自動車リサイクルシステム」)

オートバックスグループでは円滑な運用を行うために、「自動車リサイクル法」に対応したマニュアルを独自に作成、店舗に配布しています。またグループ店舗での新車購入時や車検時に、リサイクル料金をお預かりしています。

2005年 ARTAプロジェクトがパワーアップして始動!

“世界に通用する日本人ドライバーの育成”をスローガンに、オートバックスグループが元F1ドライバーの鈴木亜久里さんとのコラボレーションで推進するモータースポーツ活動、それが「ARTAプロジェクト」です。8年目を迎えたARTAは、2005年度も多彩な活動を展開します。

タイトル獲得を視野に参戦体制を強化

2005年のARTA(AUTOBACS RACING TEAM AGURI)は、引き続きメジャーレースやさまざまなカテゴリーに積極参戦します。このうち、今年から世界を舞台にしたインターナショナルシリーズへと生まれ変わった「SUPER GT^{※1}」(旧「全日本GT選手権」)については、参戦布陣を強化しました。

GT500クラスでは、鈴木亜久里さんがチーム代表に就任するとともに、ドライバーも元F1ドライバーのラルフ・ファーマンさんを新たに起用しました。またGT300クラスでは、昨シーズン2勝を挙げシリーズランキング2位を獲得したドライバーの新田守男さんと高木真一さん、専任監督に就任した土屋圭市さんとの連携で、念願のシリーズタイトル獲得を目指します。

若手ドライバーの育成プログラムを拡充

ARTAでは、モータースポーツの底辺の育成と強化を目的に、トップドライバーを目指す若者たちにチャンスと活躍の場を提供しています。昨年からスタートしたレーシングカートレース^{※2}の「ARTAチャレンジ」シリーズは内容を充実、イタリアのオープン・マスタースと提携するほか、上位選手をカートの世界選手権に派遣するスカラシップ制度を設けるなど、子供たちにステップアップの道を開きました。

このほかにも「フォーミュラ・ドリーム^{※3}」などトップドライバーへの登竜門と位置づけられるレースに出場する選手のサポートや、ジュニア向けのカートスクールを開催するなど、モータースポーツの振興に努めています。



ARTAとお客さまとの接点拡大を図る

ARTAでは、オートバックスグループ店舗において、お客さまにモータースポーツの楽しさや魅力を知っていただくため、ドライバーや監督とのトークショーやレースカーの展示、走行会の開催などさまざまな催しを行っています。

2005年もレースファンのみならず、店舗を訪れる多くのお客さまに楽しんでいただけるエキサイティングなイベントを多数企画しています。ARTAをより身近に感じていただくために、お近くの店舗でイベント開催の際は、ぜひご来店ください。



※1 「SUPER GT」(旧「全日本GT選手権」):日本で最大の観客動員を誇る人気No. 1のレース。最大出力約500馬力のGT500と、最大出力約300馬力のGT300の2つのクラスで構成。今年からインターナショナルシリーズへと発展し、レース呼称も変更されました。

※2 レーシングカートレース:モータースポーツの登竜門。レースには通常パイプフレームに、排気量100cc前後のエンジンが載ったシンプルな構造のマシンが使われます。

※3 フォーミュラ・ドリーム:若手育成を掲げて運営しているレース。2005年度は、F1日本グランプリの前座レースを含む全9戦が開催されます。

ARTAのウェブサイトでは、レースやモータースポーツの情報に加え、走行会や店舗でのイベント情報などもご覧いただけます。
<http://www.autobacs.com/motorsports/>



財務報告

決算の概要

当期の業績

2005年3月に終了した当期の日本経済は、期前半において見られた景気好転の兆しも、後半には為替相場の変動や原油価格の高騰の影響に対する懸念などから減速しました。

カー用品業界においては、ETC車載器が、低価格化、多機能化が進んだことに加えて、道路3公団の実施した購入支援制度が奏功して、昨年までに引き続き好調でした。また運転中の携帯電話での通話などを制限する改正道路交通法の施行がきっかけとなり、ハンズフリー通話関連商品の市場が盛り上がりました。しかし一方で、カーナビゲーションの成長は、自動車メーカーにおける標準装備化が進んだこともあり、鈍化し始めています。オイルやバッテリーは、取り扱い業態や店舗が増えたことで、競合環境が激化しました。

このような状況に対応するため当社では、引き続き車検・整備などのピットサービスメニューの拡充と販促を進め、売上を伸ばしました。またカー用品販売においては、独自のETC販促キャンペーンの展開で注力したETC車載器が、好調な売上を記録するとともに、ハンズフリー通話関連商品やカーナビゲーションが、売上に貢献しました。しかし一方で、オイルやバッテリー、カースポーツ用品などは奮いませんでした。この結果、当期の売上高は前期比0.1%減の226,779百万円となりました。このうちフランチャイズ加盟店に対する卸売部門(400店舗)の売上高は、同1.6%減の133,384百万円、また小売部門(172店舗)の売上高は同2.0%増の93,395百万円でした。

収益面では、販売費及び一般管理費のコントロールに努めた結果、当期の営業利益は前期比18.6%増の7,368百万円に、経常利益は同21.1%増の12,694百万円となりました。また当期純利益は、固定資産の減損会計の早期適用による損失43億84百万円の計上などにより、同46.2%減の2,928百万円でした。

一株当たりの業績

一株当たりの当期純利益は、79.85円で、一株当たり配当金は、前期比9.00円増の45.00円とする予定です。増配は、中間期・

期末それぞれ3.00円に、「オートバックス」業態30周年の記念配当3.00円を加えたものです。また期末時点の一株当たり株主資本は、4,196.25円でした。

キャッシュ・フローの状況

当期の営業活動から得られたキャッシュ・フローは、減損損失の計上があった一方で、主に税金等調整前当期純利益の減少や退職給付引当金の増加、売上債権の増加などにより、前期比20.5%減の10,979百万円となりました。投資活動に要したキャッシュ・フローは、有価証券・投資有価証券の取得・売却の収支が、前期の5,423百万円の収入から400百万円の支出に転じたことなどにより、同97.8%増の1,276百万円でした。なお期中の有形及び無形固定資産の取得による支出(設備投資)は、6,349百万円です。財務活動から得られたキャッシュ・フローは、前期に転換社債型新株予約権付社債の発行による収入10,000百万円があったため、前期の4,605百万円から当期は236百万円に減少しました。以上の結果、期末時点の現金及び現金同等物は、前期よりも9,994百万円増加して51,150百万円となりました。

財務状況

当期末の総資産は、前期末比0.2%増の203,224百万円となりました。資産の部においては、現金及び預金などが増えていきます。負債は、退職給付制度の終了に伴う退職給付引当金の減少などにより、同1.4%減の53,763百万円となりました。株主資本は、主に利益剰余金の増加により、同1.0%増の148,982百万円でした。

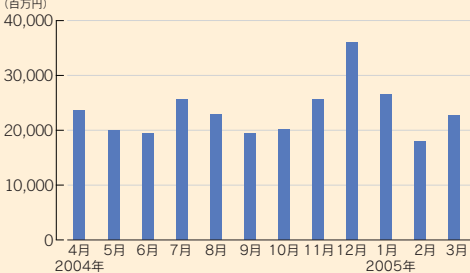
店舗の状況

期末時点の国内総店舗数は、529店舗となりました。業態別に見ると、業態転換や統合のため「オートバックス」が11店舗減少しました。一方で、「スーパーオートバックス」は6店舗、「オートバックス走り屋天国セコハン市場」は4店舗、それぞれ増えています。海外については、中国に1店舗出店し、12店舗となりました。

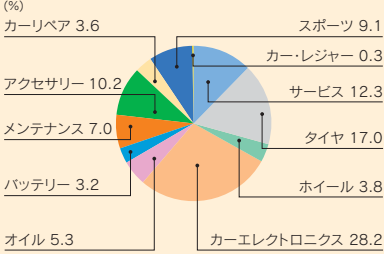
業態別店舗数

	第56期 (平成15年3月31日現在)	第57期 (平成16年3月31日現在)	第58期 (平成17年3月31日現在)	増減 (△は減少)
スーパーオートバックス:	43	54	60	6
 Type I	5	6	6	—
 Type II	38	48	54	6
 オートバックス	435	421	410	△11
 オートハローズ	16	16	16	—
 オートバックス走り屋天国セコハン市場	13	22	26	4
 オートバックスエクスプレス	1	4	5	1
海外(スーパーオートバックス、オートバックス)	10	11	12	1
合計	518	528	529	1

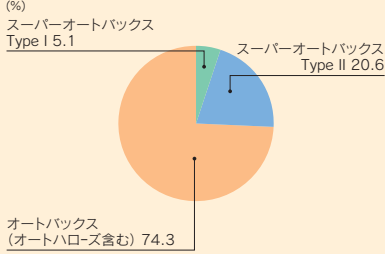
店舗小売売上高※



商品別店舗小売売上高構成比※



業態別店舗小売売上高構成比※



※ オートバックス、スーパーオートバックス Type I、スーパーオートバックス Type II、オートハローズ業態を対象としており、その他業態は含んでおりません。

連結貸借対照表

単位：百万円

	第57期 (平成16年3月31日現在)	第58期 (平成17年3月31日現在)	増減 (△は減少)
(資産の部)			
流動資産	94,358	104,214	9,855
現金及び預金	41,316	51,306	9,990
受取手形及び売掛金	12,456	12,919	463
有価証券	4,776	5,124	347
たな卸資産	18,731	17,247	△1,484
繰延税金資産	2,195	1,906	△288
短期貸付金	1,031	841	△189
未収入金	13,372	14,133	761
その他	1,628	1,444	△184
貸倒引当金	△1,149	△710	439
固定資産	108,402	99,010	△9,391
有形固定資産	60,294	51,399	△8,894
建物及び構築物	26,561	23,917	△2,643
土地	26,064	21,070	△4,994
その他	7,668	6,411	△1,256
無形固定資産	3,079	4,253	1,174
投資その他の資産	45,028	43,357	△1,671
投資有価証券	12,277	12,883	606
長期貸付金及び長期差入保証金	28,054	26,307	△1,747
繰延税金資産	4,782	4,802	19
その他	1,687	1,880	192
貸倒引当金	△1,773	△2,516	△742
資産合計	202,760	203,224	463
(負債の部)			
流動負債	33,684	34,609	925
支払手形及び買掛金	14,136	14,335	198
短期借入金	2,130	4,863	2,733
未払法人税等	3,525	1,159	△2,366
その他	13,891	14,252	360
固定負債	20,835	19,153	△1,681
社債	8	8	—
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	—
長期借入金	1,680	415	△1,265
退職給付引当金	1,394	385	△1,009
役員退職給与引当金	159	429	270
その他	7,592	7,914	322
負債合計	54,519	53,763	△756
(少数株主持分)			
少数株主持分	708	478	△230
(資本の部)			
資本金	31,958	31,958	—
資本剰余金	32,241	32,241	△0
利益剰余金	88,651	90,121	1,470
その他有価証券評価差額金	192	206	13
為替換算調整勘定	△400	△426	△26
自己株式	△5,111	△5,118	△6
資本合計	147,532	148,982	1,450
負債、少数株主持分及び資本合計	202,760	203,224	463

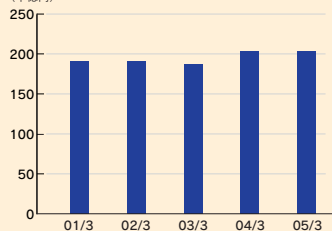
Point 1

資産の部

当期末の総資産は、前期末並みとなりました。なお期中に減損会計の早期適用を行ったために、土地、建物及び構築物が減少しています。

総資産

(十億円)



Point 2

負債の部

当期末の負債は、前期末に比べて756百万円減少しました。中でも期中に株式会社オートバックスセブンが退職給付金制度を終了したため、退職給付引当金が大きく減少しています。

連結損益計算書

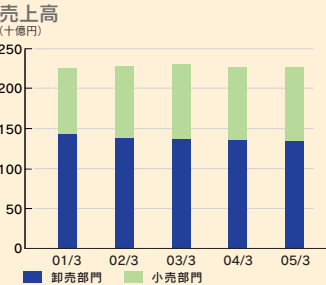
単位：百万円

	第57期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	増減 (△は減少)
売上高	227,077	226,779	△297
売上原価	159,271	158,583	△688
販売費及び一般管理費	61,595	60,827	△767
営業利益	6,210	7,368	1,158
営業外収益	7,009	7,900	891
営業外費用	2,738	2,574	△164
経常利益	10,480	12,694	2,213
特別利益	1,283	1,262	△20
特別損失	2,137	7,081	4,944
税金等調整前当期純利益	9,626	6,875	△2,750
法人税、住民税及び事業税	5,948	3,910	△2,038
法人税等調整額	△1,764	268	2,033
少数株主損失	1	231	230
当期純利益	5,443	2,928	△2,515

Point 3

売上高

売上高は、カー用品業界全体が苦戦していた中でも健闘し、前期比微減に抑えることができました。売上高の内訳は、卸売部門が58.8%、小売部門が41.2%です。

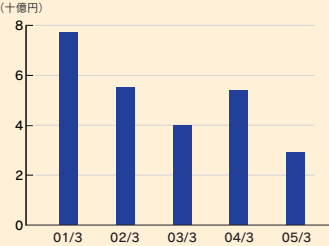


Point 5

当期純利益

当期純利益は、減損会計の早期適用によって4,384百万円の損失を計上したため、前期よりも46.2%の減益になりました。

当期純利益



Point 4

販売費及び一般管理費

当期の販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次の通りです。

従業員給料手当	19,893百万円
役員退職給与引当金繰入額	87百万円
退職給付費用	654百万円
地代家賃	5,963百万円
減価償却費	5,536百万円
貸倒引当金繰入額	691百万円

注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 38,215百万円
2. 1株当たり当期純利益 79円85銭
3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	第57期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	増減 (△は減少)
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,807	10,979	△2,828
税金等調整前当期純利益	9,626	6,875	△2,750
減価償却費	5,798	5,536	△261
売上債権の増減額(増加：△)	△219	△1,286	△1,067
たな卸資産の増減額(増加：△)	△1,022	1,492	2,515
その他	3,660	3,925	265
小計	17,843	16,545	△1,298
利息及び配当金の受取額	827	792	△35
利息の支払額	△97	△80	16
法人税等の支払額	△4,765	△6,276	△1,511
投資活動によるキャッシュ・フロー	△645	△1,276	△630
有形及び無形固定資産の取得による支出	△7,894	△6,349	1,545
有価証券・投資有価証券の取得・売却	5,423	△400	△5,824
その他	1,824	5,473	3,648
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,605	236	△4,368
短期借入金の増減額(減少：△)	△1,509	1,922	3,432
長期借入れによる収入	686	120	△565
長期借入金の返済による支出	△972	△587	385
転換社債型新株予約権付社債の 発行による収入	10,000	—	△10,000
自己株式取得による支出	△2,503	△7	2,495
配当金の支払額	△1,303	△1,384	△80
その他	207	171	△36
現金及び現金同等物に係る換算差額	△37	55	92
現金及び現金同等物の増減額	17,730	9,994	△7,735
現金及び現金同等物の期首残高	23,437	41,155	17,717
連結子会社除外に伴う現金及び 現金同等物減少額	△12	—	12
現金及び現金同等物の期末残高	41,155	51,150	9,994

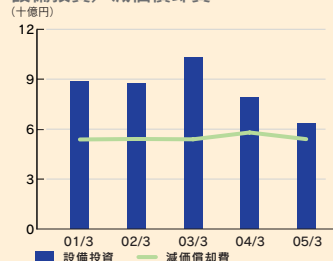
Point 6

減価償却費／設備投資

当期の設備投資の内訳は以下です。

新規出店	1,394 百万円
スクラップアンドビルド、 リロケーション及び増改築	563 百万円
情報化投資	2,073 百万円
リース用資産	886 百万円
その他	1,431 百万円

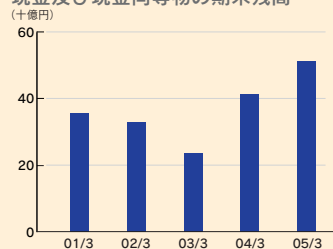
設備投資／減価償却費



Point 7

現金及び現金同等物の期末残高

現金及び現金同等物の期末残高



貸借対照表(単体)

単位:百万円

	第57期 (平成16年3月31日現在)	第58期 (平成17年3月31日現在)	増減 (△は減少)
(資産の部)			
流動資産	88,783	98,147	9,363
現金及び預金	36,673	47,646	10,973
受取手形及び売掛金	16,090	15,644	△446
有価証券	4,776	5,124	347
商品	8,005	6,860	△1,144
繰延税金資産	1,325	1,493	167
短期貸付金	9,846	8,973	△872
未収入金	12,708	13,425	716
その他	1,047	1,022	△24
貸倒引当金	△1,690	△2,043	△352
固定資産	110,471	99,952	△10,518
有形固定資産	49,404	41,779	△7,624
建物及び構築物	23,677	21,329	△2,347
土地	23,020	18,369	△4,651
その他	2,706	2,080	△626
無形固定資産	2,657	3,427	769
投資その他の資産	58,408	54,745	△3,663
投資有価証券	10,780	11,421	640
長期貸付金及び長期差入保証金	36,321	29,888	△6,433
繰延税金資産	6,360	5,557	△802
その他	11,844	11,496	△347
投資損失引当金	△2,329	△1,109	1,219
貸倒引当金	△4,569	△2,509	2,060
資産合計	199,254	198,099	△1,155
(負債の部)			
流動負債	30,738	29,495	△1,243
買掛金	12,764	12,793	28
未払法人税等	3,180	557	△2,622
その他	14,793	16,144	1,350
固定負債	18,642	18,211	△430
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	—
退職給付引当金	905	—	△905
役員退職給与引当金	119	115	△3
その他	7,617	8,095	△478
負債合計	49,380	47,706	△1,673
(資本の部)			
資本金	31,958	31,958	—
資本剰余金(資本準備金)	32,241	32,241	—
利益剰余金(利益準備金+その他の剰余金)	90,562	91,079	516
利益準備金	1,296	1,296	—
任意積立金	82,131	85,981	3,849
当期末処分利益	7,133	3,800	△3,332
その他有価証券評価差額金	192	201	8
自己株式	△5,080	△5,087	△7
資本合計	149,874	150,392	518
負債及び資本合計	199,254	198,099	△1,155

損益計算書(単体)

単位：百万円

	第57期 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	増減 (△は減少)
売上高	199,490	194,195	△ 5,294
売上原価	158,048	154,694	△ 3,353
販売費及び一般管理費	34,311	32,018	△ 2,293
営業利益	7,130	7,482	352
営業外収益	6,370	6,634	264
営業外費用	1,270	1,511	240
経常利益	12,230	12,606	375
特別利益	1,180	2,205	1,025
特別損失	4,719	9,071	4,352
税引前当期純利益	8,692	5,740	△ 2,951
法人税、住民税及び事業税	5,383	3,131	△ 2,251
法人税等調整額	△ 1,753	634	2,388
当期純利益	5,062	1,974	△ 3,088
前期繰越利益	2,714	2,571	△ 143
中間配当額	643	745	101
当期末処分利益	7,133	3,800	△ 3,332

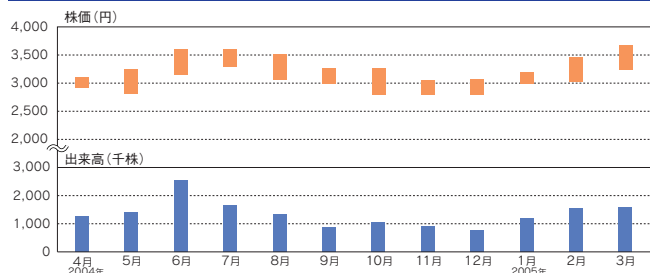
- 注) 1. 資本の部の表示方法について
商法施行規則の改正に従いまして、当期から資本の部の表示方法を変更しています。
2. 有形固定資産の減価償却累計額 28,598 百万円
3. 一株当たり当期純利益 52 円 95 銭
4. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。



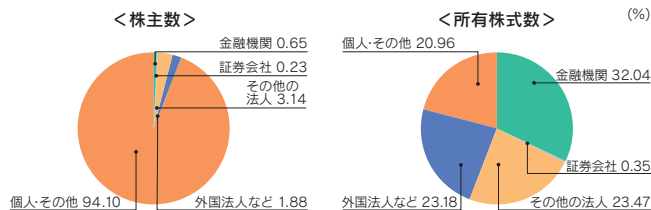
株式情報 (2005年3月31日現在)

発行する株式の総数	109,402,300 株
発行済株式の総数	37,643,742 株
株主数	10,780 名
決算日	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 なお臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
1単元の株式の数	100 株
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.autobacs.co.jp/ において提供いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所、 ロンドン証券取引所
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
名義書換事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 電話照会先	東京都府中市日鋼町1番10(〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
住所変更等用紙のご請求	0120-175-417
その他のご照会	0120-176-417
名義書換取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
大株主一覧	有限会社スミノホールディングス 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 株式会社オートバックスセブン ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント 財団法人在宅医療助成勇美記念財団 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 住野 正男 ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リユーエスタックスエグゼンプテッドベンションファンズ 住野 公一

株価推移 (大阪証券取引所)



所有者別状況



住所変更の手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きをお願い致します。株主招集ご通知や配当金などをお届けできなくなります。

ご変更は、住友信託銀行様の電話照会先(フリーダイヤル)までご連絡ください。なお、証券保管振替制度をご利用の株主さまについては、お取引の証券会社で変更手続きを行ってください。

株主優待制度について

『オートバックス』、『スーパーオートバックス』などで、1,000円(消費税込み)のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券(300円値引)を、3月末日(6月発送)と9月末日(12月発送)の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。

ご参考

- 配布枚数(半期毎): 所有株式数 100株～999株 ご優待券25枚
1,000株～ ご優待券50枚
- 優待券は商品券・他の値引(買い物券、クーポン券、値引き券等)を併用の場合、値引き後の金額に対してご利用いただけます。
- 優待券は日本国内のオートバックス、スーパーオートバックス、オートバックス走り屋天国セコハン市場、オートバックスエクスプレスおよびオートハロースの全店舗でご利用いただけます。ただし、オートバックス・コース、海外店舗ではご利用いただけません。
- 優待券は燃料、車両、保険、税金、飲食、タバコ、特價商品などにはご利用いただけません。
※車検につきましては、重量税、印紙代、自賠責保険料、リサイクル料にはご利用いただけません。車検基本料、検査手続き代行料、完成検査料、その他整備工賃、部品代にはご利用いただけます。(手続き費用は、一部店舗によって名称が異なります。)



会社情報 (2005年4月1日現在)

商号

株式会社オートバックスセブン (AUTOBACS SEVEN CO., LTD.)

創業

1947年2月

資本金

319億5千8百万円

主な事業内容

当社は、各種自動車用品部品の委託製作、販売、輸出入を主要事業として、小売総合専門店を直営店とフランチャイズ店で並行して全国にチェーン展開しております。

役員一覧※1

取締役 兼 オフィサー

代表取締役

住野 公一 CEO

取締役

井手 秀博 財務基盤整備担当
住野 耕三 海外事業戦略推進担当
兼 アジア事業部長
住野 泰士 国内店舗子会社担当
経森 康弘 Co-COO トータルカーライフ事業戦略推進統括
中田 康雄※2 (カルビー㈱取締役副社長兼CFO)
野上 明 COO
松尾 隆 経営戦略推進担当
兼 経営戦略推進室長
横井 英昭 人材基盤整備担当
湧田 節夫 Co-COO エリアドミナント戦略推進統括

監査役

小山 勝士 常勤監査役
森野孝太郎※3 常勤監査役
吉田 治邦※3 常勤監査役
久保田達夫※3 監査役
(WL Ross & Co. LLC マネージング・ディレクター)

主要な事業所

本社	(東京都江東区)	欧米事業部	(東京都江東区)
北日本エリア事業部	(仙台市泉区)	アジア事業部	(東京都江東区)
北関東エリア事業部	(千葉県市川市)	中国事業部	(東京都江東区)
南関東エリア事業部	(千葉県市川市)		
中部エリア事業部	(名古屋市名東区)		
関西エリア事業部	(大阪府吹田市)		
南日本エリア事業部	(福岡市博多区)		

オフィサー 取締役を除く

伊藤 浩明 北日本エリア事業部長
江本 吉弘 南日本エリア事業部長
釜田 尚文 車検整備事業担当
榎 宏介 C@RS 事業担当
兼 C@RS 事業推進部長
小林喜夫巳 北関東エリア事業部長
小平 智志 戦略推進基盤整備担当
兼 システム基盤整備担当
志野 修市 中国事業担当
兼 中国事業部長
角倉 正親 南関東エリア事業部長
武田 健一 トータルカーライフ事業戦略推進担当
兼 カー用品事業担当
兼 トータルカーライフ事業戦略推進室長
戸出 譲 中部エリア事業部長
松村 晃行 関西エリア事業部長
深山 義郎 新規事業担当
森本 弘徳 エリアドミナント戦略推進担当
兼 店舗開発担当
兼 業態開発事業担当
兼 エリアドミナント戦略推進室長
森本 眞臣 U-PARTS 事業担当
兼 U-PARTS 開発部長
兼 カスタムカー開発部長

※1 50音順(CEO、監査役除く) ※2 社外取締役 ※3 社外監査役



オートバックスグループ ホームページのご紹介

お客さまや株主の皆さまにオートバックスグループへの理解を深めていただけるよう、充実したホームページを公開しています。ポータルサイトは二つ。弊社の企業情報サイトと、商品・サービスや店舗についてご案内する『オートバックス ドット コム』です。是非ご利用ください。

<http://www.autobacs.co.jp/> 株式会社オートバックスセブン

オートバックスセブンの企業情報サイトです。沿革、経営戦略など基礎的な情報を掲載した会社案内、ニュースリリース、IR 情報などが閲覧いただけます。



<http://www.autobacs.co.jp/seven/ir/> 株式会社オートバックスセブン IR 情報

IR 情報のページです。IR 資料や株価情報、株主情報などを掲載しています。過去の IR 刊行物もご覧いただけます。



財務ハイライト

IR 資料

月次情報、決算短信、
有価証券報告書、アニュアル
レポート、ファクトブック
株主通信、決算説明会資料

株価情報

株主情報

優待制度、株主メモ、公告

IR に関する FAQ

資料請求

<http://www.autobacs.com/> 『オートバックス ドット コム』

オートバックスグループの、お客さま向けポータルサイトです。お客さまのカーライフに役立つ車の基礎知識をはじめ、お得なセールやキャンペーンなどの情報が満載です。さらに店舗検索、インターネットでのショッピングなど、便利なサービスも提供しています。

主な業態のホームページ

<http://www.superautobacs.com/> 「スーパーオートバックス」

エンターテインメントカーライフメガストア「スーパーオートバックス」のホームページは、豊富な商品・サービス、最新のイベント案内など、魅力がいっぱいの充実した内容です。

<http://www.autobacs.com/secohan/> 「オートバックス走り屋天国セコハン市場」

中古カー用品のデパート「オートバックス走り屋天国セコハン市場」のホームページには、各店舗の掘り出し物など、お買い得情報がぎっしりと詰まっています。



IR 情報に関するお問い合わせは
下記にお願いいたします。

経営戦略推進室 IR・インフォグループ

電話
03-6219-8718

ファックス
03-6219-8769

e-mail
investors@autobacs.com

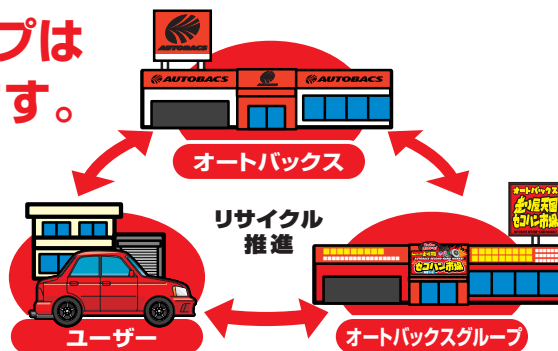
オートバックスグループの 下取システム



オートバックスグループ各店ではカーナビ、カーAV、アルミホイール、スポーツマフラー、などの各種カー用品を下取致しております。
下取した分の金額を新規購入資金に加えれば、新商品を安く買い替えることが可能です。

オートバックスグループは 資源を再利用しています。

オートバックスグループでは
資源をリサイクルし、お客様に
よりよい商品をご提供できる
ように努力しています。



- 下取の際には、身分証明書（運転免許証等）と印鑑が必要となります。
- 一部下取を実施していない店舗もございますのでご了承下さい。
- 一度下取したものは返品致しかねますのでご了承下さい。
- 下取価格は商品の状態によって変動致しますので、電話でのお問い合わせは致しかねます。
- 下取不可能な商品（純正等）もございますので、詳しくは係員までお気軽にお尋ね下さい。



植物性インクを使用し、古紙配合率100%の再生紙に、水なし印刷をしています。



AUTOBACS SEVEN CO., LTD.

株式会社 オートバックスセブン 東京都江東区豊洲5-6-52 ISTビル 〒135-8717